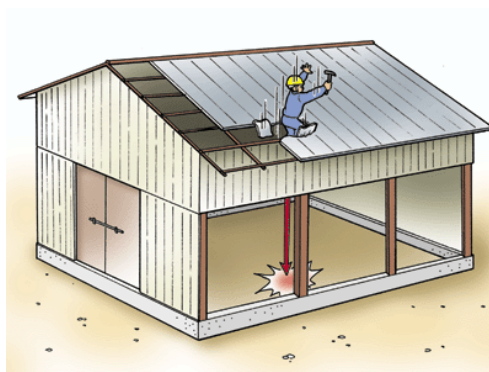


解体作業中、スレートを踏み抜き墜落

この災害は、牛舎の解体工事において、スレート屋根を取り壊す作業を行っていたとき、スレートを踏み抜き、約 5m 下のコンクリート床に墜落したものである。

解体作業を行っていた牛舎は、現在は倉庫として流用されているものであるが、軽量鉄骨造の平屋建ての建築物で、棟の高さが約 5.8m のものである。



スレート屋根は、幅 4cm の軽量形鋼の母屋が幅 1.2m の間隔で設置されており、その母屋にスレートが金具で固定されていた。

解体作業の方法は、スレート上に突き出している固定金具を目印に、母屋のあるところを移動しながら、ハンマーでスレートを叩き壊す作業を行っていた。

災害発生当日午後 1 時 20 分頃、スレート屋根上で 2 人でスレートを壊す作業を行っていたとき、大きな物音がして作業を行っていた作業者のうちの 1 人が、約 5.4m 下のコンクリート床に墜落した。

被災者は、作業服に地下足袋を履き、保護帽は着用していたが、あご紐は締めていなかった。また、安全帯は腰に着用していたが、作業中は使用していなかった。

この災害の原因としては、次のようなことが考えられる。

- 1 スレート屋根上で作業を行っているとき、屋根上に幅 30cm 以上の歩み板を設置していなかった、又は、安全ネットを張っていなかったこと
- 2 被災者は安全帯を腰に着用していたが、作業時にその安全帯を使用していなかったこと
- 3 スレート屋根上で作業を行っているとき、安全帯を安全に取り付けるための設備等を設けていなかったこと
- 4 被災者は、保護帽を着用していたが、あご紐を締めていなかったこと
- 5 高さが 5m 以上の建築物等の鉄骨の解体作業を行っているとき、建築物等の鉄骨の組み立て等の作業主任者を選任していなかったこと
- 6 事前に安全作業計画を作成せず、また、関係作業者にスレート屋根上の作業の危険性について安全教育を実施しなかったこと

同種災害の防止のためには、次のような対策の徹底が必要である。

- 1 スレート屋根の上で作業を行うときは、踏み抜きによる危険を防止するた

め、幅が 30cm 以上の歩み板を設置するか、屋根の下側に安全ネットをはるか、又は、作業者に安全帯を使用させること

- 2 スレート屋根の上で作業を行わせる場合で、作業者に安全帯を使用させるときは、安全帯を安全に取り付けるための設備等を設置すること
- 3 スレート屋根の上で作業を行う場合で、歩み板、安全ネットなどが設置されていないときは、作業者は必ず安全帯を使用して作業を行うこと
- 4 保護帽を着用するときは、必ずあご紐を締めること
- 5 高さが 5 メートル以上の建築物等の鉄骨の解体作業を行うときは、建築物等の鉄骨の組み立て等の作業主任者を選任し、そのものの直接の指揮のもとで作業を行うこと
- 6 事前に安全作業計画を作成し、作業者に周知するとともに、関係作業者にスレート屋根上の作業の危険性について安全教育を実施すること